



内閣文庫	
番號	和94386
冊數	9 (1)
函號	176 331

176-331





常陸守の御書見たりとの洞乃らりて君を三人方侍りたり
式部卿家に親王

後少輔の御書見たりとの洞乃らりて君を三人方侍りたり
内大臣兼香

正三位兼忠

世よりおぼしめされぬ御書見たりとの洞乃らりて君を三人方侍りたり
権大納言源惟通

同 後承云諸

同 常雅

春小舟の御書見たりとの洞乃らりて君を三人方侍りたり
同 云詮

正三位兼忠

権大納言源惟通

同 後承云諸

同 常雅

正三位兼忠

権大納言源惟通

同 後承云諸

同 常雅

志のつらき世にわかれ業をたてしむ程はなれりかえ

後原家宗具

世のつらき世にわかれ業をたてしむ程はなれりかえ

在備門督家宗澄典

春のふらりとてしつゝ國をたてしむ程はなれりかえ

檢中代言家宗為人

春のふらりとてしつゝ國をたてしむ程はなれりかえ

同 源重孝

春のふらりとてしつゝ國をたてしむ程はなれりかえ

同 家宗福

春のふらりとてしつゝ國をたてしむ程はなれりかえ

同 雅季

志のつらき世にわかれ業をたてしむ程はなれりかえ

同 資時

志のつらき世にわかれ業をたてしむ程はなれりかえ

同 高顯

志のつらき世にわかれ業をたてしむ程はなれりかえ

正位家宗光顯

志のつらき世にわかれ業をたてしむ程はなれりかえ

正位家宗有友

志のつらき世にわかれ業をたてしむ程はなれりかえ

同 家宗成子

志のつらき世にわかれ業をたてしむ程はなれりかえ

正位家宗隆成

く春とより乃幾ら花をむり花よりさばふ心さう

参議元正清原宗直通晴

秋のふりていとこい酒をらひてくもつちあきらむらへん

参議元正清原宗直通晴

今より花をむりてと古園中よむ花をよむ花乃とよむいゆ

元正清原宗直通晴

昔これ花のよき花ふりてく春もゆくともいへん

参議元正清原宗直通晴

花よむ花をむりてく春もゆくともいへん

参議元正清原宗直通晴

花よむ花をむりてく春もゆくともいへん

参議元正清原宗直通晴

あつたる花をむりてく春もゆくともいへん

同 作香

あつたる花をむりてく春もゆくともいへん

同 清原直通

花よむ花をむりてく春もゆくともいへん

正三位清原宗直通晴

花よむ花をむりてく春もゆくともいへん

刑部卿清原宗直通晴

花よむ花をむりてく春もゆくともいへん

正三位清原宗直通晴

花よむ花をむりてく春もゆくともいへん

同 清原直通

勤るにこころをこめてしむるはねむいともいふはなりけり

新撰信実後系重李

思ふまじき事ありは洞の深いくともいふはなりけり

尤道徳信実後系宗家

洞の深なる事なほいづくも代母にゆきまじき事あり

藏人右衛門左衛門

世のふかき事ありは洞の深いくともいふはなりけり

厚心大弼下部滝久

末子と松乃よりいづくも思ふはなりけり

藏人尤中辨后系賢敬

洞のふかき事ありは洞の深いくともいふはなりけり

藏人尤中辨后系直誠

津記書光徳松後系信実後系宗家

尚 尊服

思ふまじき事ありは洞の深いくともいふはなりけり

尊衣

敬ふに考まじき事ありは洞の深いくともいふはなりけり

兼門帯忍

いづくも考まじき事ありは洞の深いくともいふはなりけり

乃とくしぬ思ふ所恒に梅御色に似あふはゆふに人々の春

玄部卿貞建親王

世不似とよ美うし思ふ花もさふう梅つた乃を此色うを

内大臣兼香

平治のよまの思ふ梅つた乃を此色うを

正三位豊盛

ま御もみまの思ふ九言れみまのふ梅もつた乃を此色うを

右近衛大将兼冬冬

春はより酒を梅ひつ緒はふりうさ思ふうを此色うを

権大納言源惟通

白梅のよまの思ふ梅つた乃を此色うを

同 兼冬冬

よとくしぬ思ふ所恒に梅御色に似あふはゆふに人々の春

同 常雅

白梅のよまの思ふ梅つた乃を此色うを

同 公詮

いふ年うを乃春れは乃を此色うを

左近衛大将兼冬冬

春のよまの思ふ梅つた乃を此色うを

権大納言兼冬冬

いふ年うを乃春れは乃を此色うを

同 光榮

いふ年うを乃春れは乃を此色うを

正三位兼冬冬

十好乃何代小わいし... 乃中少つ... 乃中少つ... 乃中少つ...

同三后源有流

先乃何代乃小乃小官人乃神つ... 乃中少つ... 乃中少つ...

宮内卿后系共源

乃中少つ... 乃中少つ... 乃中少つ...

正三位后系德光

乃中少つ... 乃中少つ... 乃中少つ...

右大臣后系德宗

乃中少つ... 乃中少つ... 乃中少つ...

大藏卿后系德範

乃中少つ... 乃中少つ... 乃中少つ...

右大臣后系德吉

乃中少つ... 乃中少つ... 乃中少つ...

正三位后系德野

乃中少つ... 乃中少つ... 乃中少つ...

同 實廉

乃中少つ... 乃中少つ... 乃中少つ...

同 宣喬

乃中少つ... 乃中少つ... 乃中少つ...

同 實棟

乃中少つ... 乃中少つ... 乃中少つ...

同 久季

乃中少つ... 乃中少つ... 乃中少つ...

同 宗慈

花鳥のうらりもはらばらひねきめらふ家おとさきく

後三任及京信方

本浦の庭ふみせとせしりこれほとも神印つ初事

同 隆業

よんてえんわねとあふ物つふろと好女くけさきの初風

允通侍将源通兒

うふりてうけし物もつふてさあ乃きの首行乃志浦

藏人頭右通侍将中將及京隆康

の流れり波光とさうもくま乃中ふもつふあまのうと

右通侍将中將及京實全

あはとまあ花あるとくあつる乃みさるふりなこれと乃春

允 後平

悪い心入ぬい乃まき中ふいよかか神ん流の光と乃と

勅解由次官及京隆直

番もあるとこれまふり人乃つふねの神も百浦乃中

中務大輔及京國廣

かかるとあはせそふと乃りもまよひりこれかこのあは皮

允通侍将中將及京隆季

世と流し例しもあけさひはさあはさ乃り人

同 源有越

乃と好大ゆふ乃り今初の風もあはさ乃り人

同 及京隆春

あはあはあ乃らは久と乃ひり小あはあ乃らめらみと

同 源通神

くもせき野の國境も一とてそわ乃春れはよわらん

左近衛将中將源重俊

か春と春ちりきりも揚つたるふもそまうまひのよ

同 雅香

百瀬のさしづきもあつたよとすし初春れ冬とらる

藏人頭右大臣源重将

あつたさしづきもあつたよとすし初春れ冬とらる

左近衛将中將源重俊

あつたさしづきもあつたよとすし初春れ冬とらる

中務大輔安信兼章

あつたさしづきもあつたよとすし初春れ冬とらる

左近衛将中將源重俊

御酒を飲よ百乃すもいもきもきもきもきもきも

厚直大弼卜部俊久

いもきもきもきもきもきもきもきもきもきも

左近衛将中將源重俊

あつたさしづきもあつたよとすし初春れ冬とらる

左近衛将中將源重俊

あつたさしづきもあつたよとすし初春れ冬とらる

左近衛将中將源重俊

あつたさしづきもあつたよとすし初春れ冬とらる

左近衛将中將源重俊

あつたさしづきもあつたよとすし初春れ冬とらる

左近衛将中將源重俊

表代ふ教らるる御ん梅、をやりつゝ本、御んらるるのさも

号眼

とる入るより、奥梅とらるるひるをせむる、おちれ春もとのり

号依

春のさよと君ふとせして、松竹乃せらるる、おちれ春もとのり

御製
讀師

尤大臣

讀師

河野大納言

讀師

陸奥守

讀師

左大臣

讀師

冷泉中納言

讀師

左衛門督

正月十八日

石見四

柿本社御法米

正朔子日

子日~~~~~の世の松竹入るつらつらめよるる

室前梅

後法

んまよ言のくし再々海世らるるきくはあるわしと

是も早蕨

有藤

物ゆひる所や人乃がらん事と入日此園乃きり

遠夢紀

定齋

くぬきは花と南ふまきとまけあまのけりまきと

江春雨

云福

まけまきと南ふまきとまけあまのけりまきと

園新淨雁

氏孝

玉章も子み小いあめおはるなり此言のいふなり

敬酬端

宣誠

福もきき思ふもりの思はれしにわたりぬる津々

原郭と

家仁

鳴るる心清きまのいかにまにのまのてん

袖上草蒲

隆典

川とん海の水をききし神のまじひのゆきをわたり

秋爰蝶

重季

清きくもみさし鳴るるまを清きまも清きま

泉邊早秋

公緒

まにの思はれはれしにまにの思はれしに

秋情寄萩

師李

志はれし野へ乃盛はるる海をわたりし

苔上露

意通

山陰の代とて流るる水も清きまも清きま

雲間初雁

隆兼

まにの思はれしにまにの思はれしに

月照松

四久

くまの思はれしにまにの思はれしに

掛衣袴

雅季

清きまも清きまも清きまも清きまも

籬菊新綻

光和

わはれしにまにの思はれしに

庭葉満院

芳依

この巻といふ名はついでにうらぐえてかきあつた御代小あつたは

講作

後将物語

題者

冷泉中納言

奉行

日野大納言

馬丸

正月十八日

播磨國

柳井社御法衆

柳若菜

出まつむ野辺の中もまや世細末のれむと春たつらば

宮前橋

云詮

去風乃多りありくひいそわひそめつふ浦に暮れえ

都春曙

実法

ふれまもまよひくわのふいそわめの子じふろこや

帰鷹遠

師香

右海わたやまゆゆらふかつる居れとす此をそりり

社頭花

徳光

肉もむけさる元始しは暗むる少さかたるとる御法衆

河苗代

常雅

世海にうるゝに如く山河に水流はとけくさるる

江畔夜

直誠

一ふくまの海辺のふもをくさるるさるるさるる

谷郭と

幸教

あふん切若はさるるれさるるさるるさるる

夏月經

俊将

うらわら月、せらるるあつあつとてゆわく松をみる

村夕立

実岑

こころてゆわくあふんゆわく此里乃さるるさるる

七夕船

宗建

うはるるさるるさるるあふんさるるさるるさるる

落江風

甚吉

花さるる誰さるるさるる白あふんさるるさるる

獨園虫

高取

園よりあふんさるるさるるさるるさるるさるる

山路月

貞敬

あふんさるるさるるさるるさるるさるるさるる

鴈心塵

為久

波あふんさるるさるるさるるさるるさるる

堤上霧

雅香

あふんさるるさるるさるるさるるさるるさるる

赤紅葉

光榮

あふんさるるさるるさるるさるるさるるさるる

竹間霜

俊平

意りくらくらむおぼし一其行りきるふさるく後物母

夕霧村

頼胤

ゆもねくまきまへおねたくれ乃きやゆきお整乃村人

仙山雪

乙野

仙らひくく人好く小あつてまあうり言乃山雪

吉成在

吉昭

雪くもくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

通書

賢内

敷くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

忠達

幸季

岡もたつとまうあのおふくくくくくくくくくく

剛僧

代孝

ふふふくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

種三

隆興

ふふふくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

曉更鶏

惟通

ふふふくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

墨徑若

乙福

ふふふくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

水郷舟

師季

ふふふくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

市南春

雅季

ふふふくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

言社祝

兼香

この世のしるしをわづらふるやとけとめめく神の春

講師

俊将親長

彩者

雅香親長

奉行

日野大納言

馬丸

正月廿六日

院前社中會

野外霞

遠くをのぼるもつらきつらねの影も霞乃も里かきりきりす

雪中鳥

為信

心もよもいもわづらへく白雪のちりもあつひ乃霞のえ

行路梅

光榮

とこしちかきゆひいと風ふたれをそゆきわづらひ乃の梅え

春月画

高昭

あめもあけふいと花とてやがさしひ子心あよみ月

遠山花

師香

あはれくすみのひきふらふし道に花ふらふるをの心れ

杜郊堂

為久

廻りてはるかに波のふしむらひをたぐひては

松上雪

為久

名もたれど心もまづの浪もとれ海もなまらぬ

情歳言

有起

名もたれど心もまづの浪もとれ海もなまらぬ

河久恋

重季

うらみはまじりて一年月もたぬ此校の神ふりて

ち名

公福

いづれもあはれしうらみはまじりて一年月もたぬ

不憑

宣祿

末もまじりて一年月もたぬ此校の神ふりて

染梅

隆春

かたき末とらしてはるかに波のふしむらひをたぐひては

曉別恋

雅季

いづれもあはれしうらみはまじりて一年月もたぬ

山家秋

海もなまらぬ此校の神ふりて一年月もたぬ

遠村煙

淡久

誰と心遠しうらみはまじりて一年月もたぬ

鷺立剛

資時

少もたれど心もまづの浪もとれ海もなまらぬ

湖上舟

有藤

名もたれど心もまづの浪もとれ海もなまらぬ

祝言遍

実法

花は乃ちぞいへく言りし家海にそねれり

松蔭

直仁

世乃又もふ後乃ちねうしもくんを此書乃本也

暁郭と

惟通

有ゆり海家とてかききし中間乃月はあふらじ

野堂

資時

秋乃花は乃ち葉のあふらじがたはいふ新乃

夏月涼

家仁

いしげはももこしこあきもあふらじもつら

萩半信

光栄

またあわらふゆいしはき新しきもこもあふらじ

便高

通躬

入目と海は乃ちこの秋のこたれぬき

深更虫

公清

園のくさきもそねれは文は海にむし

蘇鹿

直成

いそもはうこ河くそあふらじの世にお麻や

池月

雅季

いし月よりし新葉の枝とてあふらじ

里揚衣

宗建

いそもはうこ河くそあふらじの世にお麻や

紅葉

雅香

いそもはうこ河くそあふらじの世にお麻や

朝霜

甚香

とじこども文小の移て神のよじとふらりて書あつた書
河子島 陸奥

書やふ友やゆいひさうらさうかた川敷る月ふくえ
杜香 作香

そりれり本末も紅乃一ウのさるふかくわらとてれし言
見恋 重孝

あそむやれとめろ一初まればあそむとて進ひくろんば
陸奥 陸奥

粧せしり未ゆいしつてまあまつこころめやうい
初蓮 希久

華やけみさうもさう中何らういあわぬまうくうきん
僧 通夏

かあめとひ川にけし溪川あまらみお身やほくこさう
立者 重孝

人乃あわうさ名よまのういんほくとかのいさうとも
晴天靄 実法

こ後松らうみりれあもくかうふさう湯もほらうい
御竹 範馬

百備やみりれ市のしこりまのさう代ハ君をうん
薪中衣 乃康

と風さうもあるんのとひ夜まほしきまにこね山城
海眺望 乙福

信乃白や白とれら波らよまゆらこむく清濁一由心
音道祝 実岑

道とては河をきく乃て舟をてりてく乃のたれとて

溝原 直徳

魁者 雅香胡作

奉行 日野中細 資時

二月十八日 石見國 柳中社御法樂

曉霞 家仁

山吹のあけは霞乃きりこめいもむけりし月の中

鶯訓 甚香

暖梅乃ともりてむらひもむねれこれ朝のきこえ

寝覚梅 実徳

室水の胡ち乃まれの死をわつあわらうとれれ自れ

柳玄縁 隆成

水水乃あま下くえいさく根ゆ波小くまを所乃い

春雨 雅香

霧のふりもむねれ目とあはむやうとけりみめとれ雨

春草 光榮

神の御心
迎

頼胤

神の御心
隔

雅季

神の御心
梅

源季

神の御心
久

資

神の御心
眼

高範

神の御心
神祇

資時

神の御心
海

実参

神の御心
古御

当久

神の御心
山家

信方

神の御心
進

公福

神の御心
眺

有起

神の御心
信言

長義

更なる代をよめしむるは、
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

講師

資教

題者

冷泉中納言

奉行

三條中納言

二月十八日 插磨園

柳本社所法集

立春

貞建

又小之園とて、
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

野梅

常雅

又、
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

故郷春雨

隆典

又、
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

曉啼雁

徳光

又、
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

見花

俊平

又、
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

岡郭公

為久

暑乃の初よりうへかき美の月もさきひ夕とくさき

夕月夕久

隆兼

いほふとと浦乃塩乃のふとくさきかきあふ月夕乃

田家堂

実法

世里ハ心もさき小田よりうへかき影乃とくさき

浦夏月

雅香

影乃の浦乃塩乃の初よりうへかき影乃の月夕乃

水邊納涼

乙福

あふさきさきむたハ友と初より水乃の初もいろさ初乃

菘風

定高

初乃の初よりいろさ初乃の初よりいろさ初乃

初岡鳥

後伯

霧乃の初よりいろさ初乃の初よりいろさ初乃

河霧

資敬

乃乃乃言ハ初よりいろさ初乃の初よりいろさ初乃

古寺月

雅季

初乃の初よりいろさ初乃の初よりいろさ初乃

清揚衣

有藤

あふさきさきむたハ友と初より水乃の初もいろさ初乃

梅落葉

実岑

あふさきさきむたハ友と初より水乃の初もいろさ初乃

寒字霜

賢時

あふさきさきむたハ友と初より水乃の初もいろさ初乃

湖氷

宗健

あまのふりしつらりし糸うつくしきけし君ふと浦

田端

重孝

ぬくぬくさきの小田原浦に小水海にうらうらり

意命

隆成

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

情

光榮

くさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

深

師孝

ちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちと

多

通躬

わらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわら

松雲

基香

とれりやまのわしり流るるるるるるるるるるるるるる

砌松

雅香

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

浦島

宗煉

月れさじょうも物きらるる浦るるるるるるるるるるる

木塚

實信

世の中れらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

起者

雅香胡兵

奉行

同上

二月廿二日 乙酉 水無雨 文御法集

條寒風

くももくもくともりたるひの風ききく新はくく小立もりて

澤若葉

惟通

ゆりしとちもみりたるる葉まのりたるも物もはつ小

松残雪

幸教

ゆりしとちもみりたるる葉まのりたるも物もはつ小

花満山

乙註

ゆりしとちもみりたるる葉まのりたるも物もはつ小

春田飯

乙福

ゆりしとちもみりたるる葉まのりたるも物もはつ小

郭公虫

直仁

遠くを歩かぬらんかゝるはなはたのよき事なり

養老橋

隆典

舟をこぎぬるはなはたのよき事なり

又細原

貞建

又由金屋も夏秋と秋風なるは清水にまじりて

新秋露

実徳

かゝるはなはたのよき事なり

七夕津

雅季

けしきも秋のけしきに似たり

野外麻

雅香

秋のけしきも秋のけしきに似たり

海邊月

資時

こゝろのけしきも秋のけしきに似たり

紅葉霜

為久

あやうき風も秋のけしきに似たり

時雨雲

家仁

こゝろのけしきも秋のけしきに似たり

浦子島

俊将

こゝろのけしきも秋のけしきに似たり

遠村雪

兼香

ゆめをこぎぬるはなはたのよき事なり

忠侍在

光榮

更なるはなはたのよき事なり

初逢

信方

初はあつたの如く道に貴松川月日ありて中絶
山家夕
常雅
入るる心もささるる言ひつたてし
名以落
家久
まよひて月ハ子とてふらふはあつた
後將叔良

講師

後將叔良

題者

雅香親良

奉行

日野中綱吉

二月廿四日

院音座所會

猿雪

通新

梅移水

資時

名刺當

云福

長花

実岑

河蛙

路卯花

為位

うらぬりてしちてふふらふらるる名所小川
盛るる道とらしとらむしりて小川水もあつた梅
うらぬりてしちてふふらふらるる名所小川
花さうりてしちてふふらふらるる名所小川
水さうりてしちてふふらふらるる名所小川
路卯花

あしひつちうらたゑ乃言んく小野の里今もらん

夏月

惟永

そーやとら後も好く刺文く月ゆらふかきうあ

納涼

重孝

あまこいふ言え乃言んくあはれ小川月をさるあ

初忠

為香

あまのうらふ言乃言んく又あまのけいさうひん

野草茶

基香

うたれ花ふちりよあめりくわね世乃ふらさり

月下麻

光榮

あまのうらふもあまのうらふもあまのうらふも

帯原

実後

あまのうらふもあまのうらふもあまのうらふも

栞菊

有藤

あまのうらふもあまのうらふもあまのうらふも

夕落葉

家仁

あまのうらふもあまのうらふもあまのうらふも

杜雪

益通

あまのうらふもあまのうらふもあまのうらふも

龍水

通夏

あまのうらふもあまのうらふもあまのうらふも

雲雲

為久

あまのうらふもあまのうらふもあまのうらふも

京

宣謀

つとて身と袂乃由と云うつとあはれおひひとて

野宿

雅香

あめ世あやめさし居まつてあつたはたあつてん

海辺落

貞建

よめい波とてそく難波えりゆりゆりさす白つら

類者

冷泉中御言

奉行

三條の中御言

二月廿五日

乙亥

聖廟所法集

早春朝

貞仁

あはれやうつり日影も山乃ととまよふてみくくもあつて

橋邊露

資時

あつた春あつてみくくあつてあつてあつてあつてあつてあつて

梅枝

為範

あつた乃梅さうりあつたあつてあつてあつてあつてあつてあつて

田辺柳

乙詮

あつたあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

春月

松胤

あつたあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

師房

定俊

多のそまきつらうきしき初秋もむいなるく秋元乃し

野萩

実藤

秋のそまきつらうきしき初秋もむいなるく秋元乃し

松麻

神香

秋のそまきつらうきしき初秋もむいなるく秋元乃し

葛辺乃

実今

秋のそまきつらうきしき初秋もむいなるく秋元乃し

秋夕

通貫

秋のそまきつらうきしき初秋もむいなるく秋元乃し

雨見月

陸兼

秋のそまきつらうきしき初秋もむいなるく秋元乃し

情

実全

秋のそまきつらうきしき初秋もむいなるく秋元乃し

播衣

信方

秋のそまきつらうきしき初秋もむいなるく秋元乃し

材霧

雅季

秋のそまきつらうきしき初秋もむいなるく秋元乃し

如象通

惟通

秋のそまきつらうきしき初秋もむいなるく秋元乃し

関村ぬ

云福

秋のそまきつらうきしき初秋もむいなるく秋元乃し

雅路宿

師季

秋のそまきつらうきしき初秋もむいなるく秋元乃し

子馬

秋のそまきつらうきしき初秋もむいなるく秋元乃し

寒月

常雅

神うさる由つらわしもゆつゝの道とらししてさあ月うけ

柏藪

家久

さうろちひろくもれあわれ最あつさあもらん

故郷雪

小廣

さあひはひはあまあま白きははあふふ宿のゆわら

燈火

雅香

さあはあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

傳國恋

光榮

さあはあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

見贈

為久

さあはあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

道

李憲

鳥うゆもあああああああああああああああああああ

曉暉

四久

さあはあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

如雲

重孝

わあはあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

別

家仁

さあはあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

偽

澄典

さあはあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

獸

徳光

さあはあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

秋意

徳長

いづれおちるを伴ふ路のてをわが世にたのむるに
深久

隆光

かきつゝも程なくしては年経ぬ他はつゝも
故山猿

実隆

かいはじし心持してはみだりし
洞戸雲

宗建

物々しきものもなきはつゝも
野風

恭章

心持して本意のなきもつゝも
田家

兼香

時をわすれぬはつゝも
高教

橋の春

高教

昔よりつれづれに
高松院

高教

昔よりつれづれに
高松院

海源

高教

邦若

雅季

春の

同上

三河宮 法皇御真守 柳中社御法集

花映日

日あけく花乃いりり今く小はくねむ乃枝とんきり

花葉風

雅李

花くもんねあはるも陰ハさく小あひもねあ風

雲似雪

長義

風あはるあ陰御神く陰はく山乃さくも言くとんき

霞中花

益通

あけあけさ紅乃あひすくあひさすも枝乃あつ花

花帯露

定喬

乃とるあ日影とんきく紅乃枝小をりあつ花乃あつ玉

朝花

俊平

まのふくそ 河をさへも 雲のしほに 雲のしほに 雲のしほに

夕花

隆春

相乃く 息をく 後も 如く 雲のしほに 雲のしほに 雲のしほに

秋花

有起

雲のしほに 息をく 後も 如く 雲のしほに 雲のしほに 雲のしほに

橋花

柳香

渡り 舟を 神も 舟を 舟を 舟を 舟を 舟を

池花

宣諫

波乃 波乃 波乃 波乃 波乃 波乃 波乃 波乃

花浪

為範

水乃 面乃 波乃 波乃 波乃 波乃 波乃 波乃

花白

有敏

衣 影 影 影 影 影 影 影

花色

資時

顔 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

花楸

雅香

木葉 木葉 木葉 木葉 木葉 木葉 木葉 木葉

華本

延久

笑 笑 笑 笑 笑 笑 笑 笑

花見色

実岑

花 花 花 花 花 花 花 花

侍

為久

前 花 花 花 花 花 花 花 花

歌

光宗

今つら物さうな胡れいあうゝあか酒のついでとらふさ
云福

とれあうさうり此後さういね〜あひひさひさひ
尊眼

表あひ乃さうとさうや新屋〜さあひさうさうあ
神紙

講師 宣誨

題者 冷泉中紀言

奉行 同上

三月十八日 石見國 柳井社浄法集

見記 兼香

侍のひ〜あうあうり小屋むらうあわらねさあああり
瓶花 雅家

あうもあひああねのそ深酒さうとあひいあひさうさう
物巻 云福

地あうああああ中ら一校ああもさうさうさうさう
峯上花 尊眼

向さあああさ根乃根さああうああああさああああ
野津花 云野

家ああああああああああああああああああああ
河記 隆兼

地ぬ方もうり本末の終り波の巻は云の江の舟

関元

資敏

越中てゆきけんもさむしにさうりねりあふさ花ん

磯元

定喬

あさあし海もさうん波舟もさつま秋の紅さうり

花以雲

貞建

咲清く花のほわきさ白あろさあをゆふみう清心

空如香

信の

高きの物うさう花のあろあ少のささ花のあも花ぬ

月亦元

氏孝

ぬれ鳥もわくさうさうさ月ふまひらわひさ紅花ゆさ

風亦元

乙詮

昔はささ葉のわし小葉はれく盛さうりささあさうり

雨後元

実岑

如るもさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうり

禁中元

國久

ささの種けりうさ目さうりさうりさうりさうりさうり

晴家元

宗暲

さうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうり

雨亦元

光宗

さうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうり

草庵元

守孝

拙直さうりさうりさうりさうりさうりさうりさうり

花田元

隆興

物はしほくも乃心なるあり春をいそぐべ

講師 雅香撰

題者 同上

奉行 冷泉中代言

三月十八日 播磨國 柳井社御法集

氷姫造 解 高眼

春夜のこゝろわびたるあまのつゆはなはれはるる

雪中鳥 兼香

梅のえはまもさきさきあけのこゝろはるる

春夕月 資時

心は端のりぬすけはゆき道たかりふとくつづ月あけ

野春駒 為範

とくまはゆりきつる世のひろくわね日くしわさるる

花文松 幸教

日やそあけのけしきあけのこゝろはるる

菖蒲端 澄久

小秋のこころをいかにしるべしとて思ふにほのぼのたるをよきとて思ふ

養早梅

後清

朝のこころをいかにしるべしとて思ふにほのぼのたるをよきとて思ふ

圓治恋

光榮

夕暮のこころをいかにしるべしとて思ふにほのぼのたるをよきとて思ふ

河内

云野

夕暮のこころをいかにしるべしとて思ふにほのぼのたるをよきとて思ふ

海

師香

夕暮のこころをいかにしるべしとて思ふにほのぼのたるをよきとて思ふ

山家

為久

夕暮のこころをいかにしるべしとて思ふにほのぼのたるをよきとて思ふ

旅家

実岑

夕暮のこころをいかにしるべしとて思ふにほのぼのたるをよきとて思ふ

芦間房

雅孝

夕暮のこころをいかにしるべしとて思ふにほのぼのたるをよきとて思ふ

鷗詠水

云備

夕暮のこころをいかにしるべしとて思ふにほのぼのたるをよきとて思ふ

言山侍

雅香

夕暮のこころをいかにしるべしとて思ふにほのぼのたるをよきとて思ふ

閑中枕

師香

夕暮のこころをいかにしるべしとて思ふにほのぼのたるをよきとて思ふ

家社院

常雅

夕暮のこころをいかにしるべしとて思ふにほのぼのたるをよきとて思ふ

澤名鳴

徳光

夕暮のこころをいかにしるべしとて思ふにほのぼのたるをよきとて思ふ

法水九初色は梅の曉乃月ふとあつたるを

講師

雅香親作

題者

同上

奉行

冷泉中納言

三月十八日

院常陸所會

沙路梅

實法

志はあらずとて由と初創はるは心より一家の梅

霞中春雨

惟水

老乃日のすけは梅の如く物とて去るは心は毎に

長後郭云

為久

三秋の日はさき乃由りては心よりとて初意は

虫吟齋

長義

小松をよみては家も寒くし虫もあはれとて心より

海辺残月

あつり月も海も清くは心より雲の波も新はるは

香中齋

定齋

らるるにひらひらとまよふるもふりて身なりと曉るは縁

尋家色

光宗

千重とよまの心まじふとひとらんかひあはるるは雲乃中乃

秋意色

有藤

わいともつこしういしとゆつれき中乃うまふは美おのり

霧中山

有藤

ふゆとふゆとまよふるもまよふるこひにふふひねまきん

池上松

有起

池乃面よりわが心といふもまよふるこひにふふひねまきん

歌者

冷泉中納言

奉行

同

四月十八日 石見國 河津社御法集

寫者春朝

尊眼

物まじふもまよふるもまよふるこひにふふひねまきん

梅花誰家

有藤

まいともまよふるもまよふるこひにふふひねまきん

師馬喜晴天

隆典

まよふるもまよふるもまよふるこひにふふひねまきん

花添山親友

高郎

まよふるもまよふるもまよふるこひにふふひねまきん

水郷春望

俊平

まよふるもまよふるもまよふるこひにふふひねまきん

餘江河立

常航

夏乃多繁中ハシモモヒトモモ花乃めり

對月侍郭公

陽春

あききりふらふらとさかづきほりふしほりふしほりふしほりふしほり

水邊高浦

後將

さしほりふらふらとさかづきほりふしほりふしほりふしほりふしほり

閑中五月雨

深草

同人もさしほりふらふらとさかづきほりふしほりふしほりふしほり

遠村数丈

陸奥

あききりふらふらとさかづきほりふしほりふしほりふしほりふしほり

深暑如夏

宗達

まじりて筆とさかづきほりふしほりふしほりふしほりふしほり

深夜宿風

雅高

しほりふらふらとさかづきほりふしほりふしほりふしほりふしほり

田上稻妻

澄成

風うらやみの高きとさかづきほりふしほりふしほりふしほり

曉月閑坐

為範

あききりふらふらとさかづきほりふしほりふしほりふしほり

紅葉映池水

國久

あききりふらふらとさかづきほりふしほりふしほりふしほり

時雨雷行客

あききりふらふらとさかづきほりふしほりふしほりふしほり

残菊薰衣

公野

あききりふらふらとさかづきほりふしほりふしほりふしほり

東海言笑

宣琳

よもあに名月を道このふ影示わき流る様よ

無業

よせもあはれはるるあ業のいかにありとも下あひい

舟

よしよと昔のあひ乃杖をささるる影りむと申ふらも

多

鑑典

爰はしてあつるふりてと糸初めの影るるあひ

渡

光初

はしとあひはれともあ身らつるつと渡あひ

社頭

二藏

あひい昔のあひと昔のあひと神さかたあああ

山家

定当

よもあに名月を道このふ影示わき流る様よ

田

二福

あひあふあふ山田りつるあひとあひ

閑居

實岑

あひあふあふ山田りつるあひとあひ

海路

聖季

あひあふあふ山田りつるあひとあひ

眺望

信の

あひあふあふ山田りつるあひとあひ

本懐

成孝

あひあふあふ山田りつるあひとあひ

孝賢

ち歌

ゆきとくえんきくしは枯木逢春は吟ねわたり乃後乃夕とく

梅雨

後将

青いふくむしきよひのあつてくさ目くねねおんあはれ

夏晓月

基香

身のふみしえらも涼しきはわつと家あふる月影

草

為香

東風くちきよふ世のなまふまゝくしるあやめいん

沈雲

邦永

烟の池のひらりとけしきあやむ物もあやふくくくく

垣夕影

重季

一ふりし道まめし物家のわくくくくくかたはゆふく

改造火

貫岑

夕きく揚指ふくく梅をくゆるくくくくくくく

滝多輝

通夏

流信のひくくくくくくくくくくくくくくくく

藤風

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

晚夏

雅季

あつとよもくくくくくくくくくくくくくくく

虫恋

惟通

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

例

公性

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

剛

水久

こゝろに七葉のいづれも言ふ事なきにあらざらん

別恋

為範

予もあはれなきにあらざらん別れもあはれなきにあらざらん

芳天

幸教

あはれもあはれなきにあらざらん言ふ事なきにあらざらん

雲

隆兼

そのあはれもあはれなきにあらざらん白雲のいづれも言ふ事なきにあらざらん

鳥

宗建

あはれもあはれなきにあらざらん言ふ事なきにあらざらん

黙

徳光

公騎のあはれもあはれなきにあらざらん言ふ事なきにあらざらん

規心

資村

あはれもあはれなきにあらざらん言ふ事なきにあらざらん

各橋

公福

あはれもあはれなきにあらざらん言ふ事なきにあらざらん

浪魚

隆典

月もあはれもあはれなきにあらざらん言ふ事なきにあらざらん

梢懐

実法

風もあはれもあはれなきにあらざらん言ふ事なきにあらざらん

浦眺

高祐

あはれもあはれなきにあらざらん言ふ事なきにあらざらん

旅情

師吉

あはれもあはれなきにあらざらん言ふ事なきにあらざらん

社述懐

為久

くはらもなをえおまの神さよめいせりあけり

講作

陸兼相良

起者

雅香朝臣

奉行

三條中納言

廿月十八日 播磨國 柳本法師法樂

初春水

實陰

くはらもなをえおまの神さよめいせりあけり

野養菜

資時

くはらもなをえおまの神さよめいせりあけり

梅連客

宣滋

くはらもなをえおまの神さよめいせりあけり

旅春月

定高

くはらもなをえおまの神さよめいせりあけり

鶴別花

俊法

くはらもなをえおまの神さよめいせりあけり

春日遊

宗建

わらわの林とて林のうらもききとて春を言ひしめ

寂願斎

隆成

とてわらわの林とて林のうらもききとて春を言ひしめ

辺郭云

高眼

わらわの林とて林のうらもききとて春を言ひしめ

柳野麦

徳光

わらわの林とて林のうらもききとて春を言ひしめ

納涼風

資敬

わらわの林とて林のうらもききとて春を言ひしめ

田新秋

高久

わらわの林とて林のうらもききとて春を言ひしめ

雨中秋

実岑

わらわの林とて林のうらもききとて春を言ひしめ

袖上露

兼香

わらわの林とて林のうらもききとて春を言ひしめ

秋見月

邦永

わらわの林とて林のうらもききとて春を言ひしめ

霧滿舟

雅香

わらわの林とて林のうらもききとて春を言ひしめ

野池鶴

高顯

わらわの林とて林のうらもききとて春を言ひしめ

林葉紅

通新

わらわの林とて林のうらもききとて春を言ひしめ

氷未深

云野

あはれなるもかたじけなくしるるもあはれなるも
寒松夜

あはれなるもかたじけなくしるるもあはれなるも
洛陽雪

あはれなるもかたじけなくしるるもあはれなるも
目見え

あはれなるもかたじけなくしるるもあはれなるも
湯煤

あはれなるもかたじけなくしるるもあはれなるも
重季

あはれなるもかたじけなくしるるもあはれなるも
色門

あはれなるもかたじけなくしるるもあはれなるも
有妨

あはれなるもかたじけなくしるるもあはれなるも
恨久

あはれなるもかたじけなくしるるもあはれなるも
海上雲

あはれなるもかたじけなくしるるもあはれなるも
鶴宿松

あはれなるもかたじけなくしるるもあはれなるも
暁婦情

あはれなるもかたじけなくしるるもあはれなるも
父志思

あはれなるもかたじけなくしるるもあはれなるも
赤矢祝

云借

隆兼

云福

重季

隆典

折胤

重季

光永

父孝

甚香

通夏

わちあつたるはと世とて切つて世の世とていふ

講師

隆兼親作

野者

雅香親作

奉行

公福

五月廿六日 公宴内 中書在

深山新樹

さしをさすさしは花さすさすあまは流るるさすあまは流るるのさす

郭公一聲

隆成

名物なり今うたをさすさすさすさすさすさすさすさすさすさす

山田早苗

隆兼

あつたるはと世とて切つて世の世とていふ

夏月易明

資時

あつたるはと世とて切つて世の世とていふ

北邊綱原

李憲

あつたるはと世とて切つて世の世とていふ

平家忠

通躬

かろいねんを若女に流り唐いあふるも恋をみんと

抄師志

乙野

通海より中乃いさむしうひそめあふる

旅宿

乙福

多代よりいさむしうひそめあふる

因洛

所志

もろのわらも中乃あけきふよは因をいさむ

河邊

宗建

いし乃あふさびとら川乃さたのいさむしう

古寺曉燈

雅喬

多代よりいさむしうひそめあふる

濃林松吟

光宗

わしは山家送年

山家送年

重孝

ついでにわらも中乃あけきふよは因をいさむ

推史又師

基喬

昔よりいさむしうひそめあふる

社頭松久

乙緒

ふとせの神垣をいさむしうひそめあふる

十



以者

雅香朝臣

奉行

日野中納言

